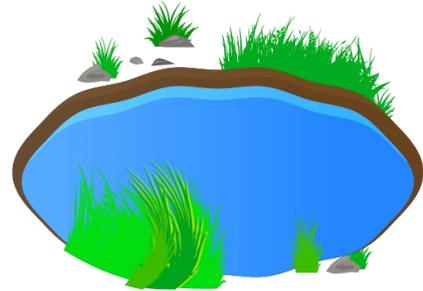


First Graders and Little grebes

There was a big pond on the way to school.
The first graders went by the pond in the morning.
Five or six black grebes were floating on the water.
They sang together as usual, seeing the birds.



♪ Little grebes, grebes
Give you Dumplings
Dive into the water ♪

The grebes dived their heads into the water as if they were pleased to be given the dumplings. They, however, didn't give dumplings to the birds. There was no pupils who had dumplings on their way to school. They arrived at their school. Their teachers told them at school, "Every one, you must not tell a lie. It is very bad to tell a lie. Old people said, 'If you told a lie, you would have your tongue pulled out with the nail puller by a red ogre when you died.' So you must never tell a lie. If you understand, raise your hands." Everyone raised his or her hand, because they understood it well. After school, they passed the pond again. There were still grebes seeing them in the pond as if they were waiting for them.

♪ Little grebes, grebes ♪

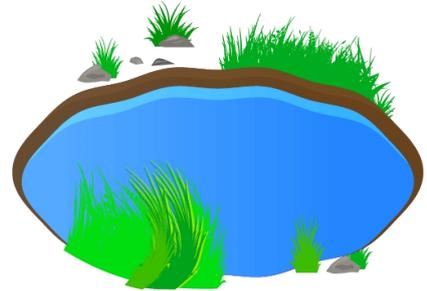
They began to sing as usual.
But nobody sang the rest of the song.
If they sang, 'Give you Dumplings, Dive into the water', it would mean they told a lie. They had been just told today not to tell a lie.
What should they do?
It was disappointing to leave there. Grebes also must be disappointed if they left there.
So they sang like this,

♪ Little grebes, grebes
Not give you Dumplings
But dive into the water ♪

The birds dived into the water violently.
They knew that they had dived not because they wanted the dumplings but they were glad to be called by the first graders. (Original by Niimi Nankichi: 2023.9.18 by Kudo)

一年生たちとひよめ

学校へいくとちゅうに、大きな池がありました。
一年生たちが、朝そこを通りかかりました。
池の中にはひよめが五六っば、黒くうかんでおりました。
それをみると一年生たちは、いつものように声をそろえて、



ひよめ、
ひよめ、
だんごやアるに
くウぐウれッ、

うたいました。
するとひよめは頭からぷくりと水のなかにもぐりました。だんごがもらえるのをよろこんでいるようにみえました。
けれど一年生たちは、ひよめにだんごをやりませんでした。学校へゆくのにだんごなどもっている子はありません。
一年生たちは、それから学校にきました。
学校では先生が教えました。

「みなさん、うそをついてはなりません。うそをつくのはたいへんわるいことです。むかしの人は、うそをつくと死んでから赤鬼に、舌べろを釘ぬきでひっこぬかれるといったものです。うそをついてはなりません。さあ、わかった人は手をあげて。」

みんなが手をあげました。みんなよくわかったからであります。
さて学校がおわると、一年生たちはまた池のふちを通りかかったのであります。
ひよめはやはりおりました。一年生たちのかえりを待っていたかのように、水の上からこちらをみていました。

ひよめ、
ひよめ、

と一年生たちは、いつものくせでうたいはじめました。
しかし、そのあとをつづけてうたうものはありませんでした。「だんごやるに、くぐれ」とうたったら、それはうそをいったことになります。うそをいってはならない、と今日学校でおそわったばかりではありませんか。

さて、どうしたものでしょう。
このままいってしまうのもざんねんです。そしたらひよめのほうでも、さみしいと思うにちがいありません。
そこでみんなは、こう歌いました。

ひよめ、
ひよめ、
だんご、やらないけれど、
くぐぐぐ

するとひよめは、やはりいせいよく、くるりと水をくぐったのであります。
これで、わかりました。ひよめはいままで、だんごがほしいから、くぐったわけではありません。一年
生たちによびかけられるのがうれしいからくぐったのであります。（原作：新美南吉）